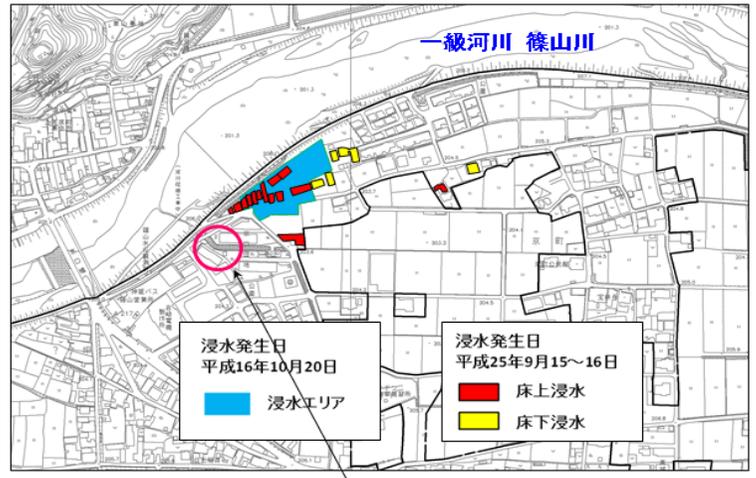


平成30年7月豪雨における浸水対策の効果事例について

- もちがつぼ
- 糯ヶ坪地区は平成25年9月の台風により篠山市内で最も浸水被害を受けた。（床上浸水14戸・床下浸水4戸）
- 浸水原因を調査した結果、排水先の河川水位が上昇したことにより、内水の排水機能が低下したことが判明。
- 平成29年度から雨水ポンプ場（2.0m³/秒）の整備に着手し、平成30年6月に整備が完了。
- 今回の豪雨でも河川水位が上昇したが、**ポンプ場により内水の排水機能を確保し、浸水被害は発生しなかった。**

過去の浸水被害



雨水ポンプ場建設場所

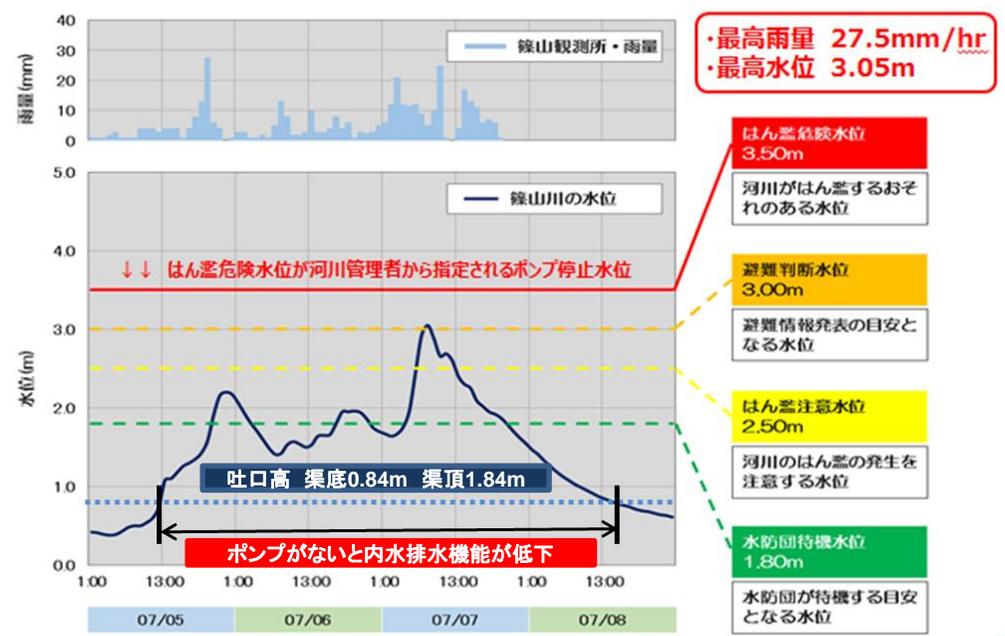
浸水被害発生時と今回の豪雨時の比較

	年月日	河川最大水位(m)	1時間最大降水量(mm)	24時間最大降水量(mm)	被害戸数
前回	H25.9.15～16	3.257	19.0	204.5	18
今回	H30.7.5～7.7	3.050	27.5	189.5	0

前回と同規模の降雨であったが、浸水被害は0件

河川水位の変動

○平成30年7月5日～8日（4日間）の観測所雨量と篠山川の水位



今回の豪雨では、7/5～7/8の4日間で59時間にわたりポンプを稼動。約7.8万m³の内水を排水し、ポンプ場整備が浸水被害の軽減に大きく貢献。